今号の主な記事

2面　情報ボックス、人材募集
3面　健康・衛生一口メモ、年末年始などの診療・調剤案内ほか
4面　毎日映画コンクール表彰式にご招待、年末年始の防犯対策、寄附禁止のルール、かなざわ講座ほか

No.2089

めぐろ区報

令和２年（2020年）12/25

毎月5・15・25日発行

目黒区ホームページ

次号は
１月15日
発行です
１／５号の発行はありません

プロフィール
童門冬二（どうもん・ふゆじ〈本名・太田久行〉） 作家。目黒区名誉区民。目黒区役所・都庁などで勤務したのち作家活動に入る。数々の歴史小説は各界から高い評価を受け、90歳を超えた今も、執筆活動を続けている。福祉環境整備基準策定委員会委員長などを歴任し、区政の進展、文化の向上に貢献。

みんなで乗り越える

～リレー応援メッセージ　No. 7

コロナ禍で少しでも前向きな気持ちになれるよう、６月からスタートしたリレー応援メッセージ。目黒にゆかりのある６人のかたから、メッセージを寄せていただきました。
今回リレーを締めくくるのは、作家で名誉区民の童門冬二氏です。

常温の心をさらに発揮

九十三年目黒区でお世話になっておりますが、区民の方々の特性は「常温の水」だな、と思っています。世の中が熱いときはクールに、冷たいときは温かく対応する良識が成熟しているからです。現在のコロナの状況についても、私が多く目にし、耳にするのは、区民の「恕（じょ）の精神」と「忍びざるの心」の発揮です。恕は相手の立場に立ってものを考えることであり、忍びざるの心は他人の危難は見るに忍びず、必ず手助けをする衝動のことです。特に今は、それが身近なところで静かに実行される例を、私自身も多く経験します。そのたびに「目黒区って凄いな、目黒区民って素晴らしいな」と誇りに思います。これを誠実に積み重ねていけばウイルスも必ず退くでしょう。もうしばらく頑張りましょう。

童門冬二

区民の皆さんへ　年末のごあいさつ

令和２年も終わろうとしていますが、新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束の兆しが見えません。今年は、小・中学校の休業や保育園等の休園、区有施設の利用休止、区民まつりや目黒シティランをはじめとする行事・事業の休止など、区民の皆さんにご協力いただきながら感染拡大の防止に努めてまいりました。改めまして、ご対応いただいた区民の皆さんのご理解とご協力に感謝申し上げます。

区では、新型コロナウイルス感染症に対し、「備える」「支える」「進める」の「めぐろ・３Ｓ・アクション」と銘打って取り組みを進めてまいりました。「備える」では目黒区医師会や病院と連携したPCR検査センターの拡充、「支える」ではひとり親家庭等への給付金、プレミアム率50％のめぐろ地元のお店応援券の発行、「進める」では区立小・中学校における１人１台のタブレットの整備などに取り組んでまいりました。また、新型コロナウイルスの予防ワクチンについては、国の動きに即座に対応できるよう、組織を設置しました。今後、ワクチン接種が可能となった段階で、できるだけ速やかに対応し、接種開始の際には、改めて区民の皆さんにお知らせいたします。

令和３年においても、感染拡大防止の取り組みを緩めるわけにはいきません。目黒区に暮らすすべての皆さんの生命・生活を守るために、「めぐろ・３Ｓ・アクション」の取り組みをより強固に、確実に進めてまいります。新型コロナウイルスとの戦いには、区民の皆さんの対策の徹底が不可欠です。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

目黒区長　青木英二

発行/目黒区　編集/企画経営部広報課　〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15 ☎3715-1111(代) FAX5722-8674(広報課)　目黒区ホームページ https://www.city.meguro.tokyo.jp/